

航空従事者学科試験問題

P4

資格	定期運送用操縦士（飛） 准定期運送用操縦士（飛）	題数及び時間	20題 40分
科目	航空法規等〔科目コード：04〕	記号	CCAA041750

◎ 注 意（１） 「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

（２） 解答は「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）に記入すること。

◎ 配 点 1問 5点

◎ 判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

問 1 国際民間航空条約の各条文 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。
(1) ~ (4) の中から選べ。

- (a) 各締約国の当局は、不当に遅滞することなく、他の締約国の航空機を着陸又は出発の際に検査し、及びこの条約で定める証明書その他の書類を検閲する権利を有する。
- (b) 国際航空に従事するすべての航空機は、登録を受けた国又は乗り入れ国が発給し、又は有効と認められた耐空証明書を備えなければならない。
- (c) 各締約国は、すべての空域の飛行に関しては、自国民に対して他の締約国が与えた技能証明書及び免状を認めることを拒否する権利を留保する。
- (d) 国際航空に従事するすべての航空機については、この条約に従って随時定められる形式で航空機、その乗組員及び各飛行の細目を記入した航空日誌を保持しなければならない。

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 2 国際民間航空条約第37条 (国際の標準及び手続の採択) で、国際民間航空機関が必要に応じて随時採択し、及び改正する国際標準並びに勧告される方式及び手続 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 通信組織及び航空保安施設
- (b) 空港及び着陸場の性質
- (c) 航空機の耐空性
- (d) 気象情報の収集及び交換

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) なし

問 3 定期運送用操縦士が旅客を運送する航空運送事業の用に供する航空機に乗り組んでその操縦を行う場合の航空身体検査証明の有効期間 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (4) の中から選べ。

- (a) 一人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が40歳未満の者は1年である。
- (b) 一人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が40歳以上の者は6月である。
- (c) 二人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が60歳未満の者は1年である。
- (d) 二人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が60歳以上の者は6月である。

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 4 航空英語能力証明について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。
(1) ~ (4) の中から選べ。

- (a) 航空英語能力証明が必要な航空機の種類は、飛行機、回転翼航空機、及び滑空機である。
- (b) 本邦内の地点と本邦外の地点との間において行う航行では航空英語能力証明が必要である。
- (c) 本邦内から出発して着陸することなしに本邦以外の国の領域を通過し、本邦内に到達する航行では、航空英語能力証明は必要ない。
- (d) 航空英語能力証明の有効期間は言語能力レベルが6と判定された場合には6年である。

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

- 問 5 航空法施行規則第149条（航空機の運航の状況を記録するための装置）の記述で正しいものはどれか。
- (1) 飛行記録装置は、離陸に係る滑走を始めるときから着陸に係る滑走を終えるまでの間、常時作動させなければならない。
 - (2) 飛行記録装置は、飛行の目的で発動機を始動させたときから飛行の終了後発動機を停止させるまでの間、常時作動させなければならない。
 - (3) 音声記録装置は、離陸に係る滑走を始めるときから着陸に係る滑走を終えるまでの間、常時作動させなければならない。
 - (4) 音声記録装置は、飛行の目的で発動機を始動させたときから着陸に係る滑走を終えるまでの間、常時作動させなければならない。

- 問 6 航空法施行規則第179条（航空交通管制圏等における速度の制限）の下線部（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（5）の中から選べ。

- 1 法第82条の2第1号の空域（航空交通管制圏等）であつて、高度 (a) 900m 以下の空域を飛行する航空機にあつては、次に掲げる航空機の区分に応じ、それぞれに掲げる指示対気速度
 - a ピストン発動機を装備する航空機 (b) 160 ノット
 - b タービン発動機を装備する航空機 (c) 200 ノット
- 2 法第82条の2第1号の空域（航空交通管制圏等）であつて、高度 (a) 900m を超える空域又は進入管制区のうち航空交通管制圏に接続する部分の国土交通大臣が告示で指定する空域を飛行する航空機にあつては、指示対気速度 (d) 250 ノット

- (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) なし

- 問 7 屋間障害標識の説明で正しいものはどれか。

- (1) 地表又は水面から60m以上の高さのもの設置者は、国土交通省令で定めるところにより、当該物件のすべてに屋間障害標識を設置しなければならない。
- (2) 屋間において航空機からの視認が困難であると認められる煙突、鉄塔、柱その他の物件でその高さに比しその幅が著しく狭いものすべてに屋間障害標識を設置しなければならない。
- (3) 屋間障害標識は、塗色、旗及び標示物で示される。
- (4) 高光度航空障害灯を設置すべき物件は、屋間障害標識を設置しなければならない。

- 問 8 航空法施行規則第5条の4（飛行規程）で飛行規程に記載されるべき事項として誤りはどれか。

- (1) 航空機の概要
- (2) 離陸し、又は着陸することができる最低の気象状態
- (3) 通常の場合における各種装置の操作方法
- (4) 航空機の限界事項

- 問 9 航空法第65条（航空機に乗り組ませなければならない者）において、当該航空機を操縦することができる者を2人乗り組ませなければならない航空機で誤りはどれか。

- (1) 構造上、その操縦のために2人を要する航空機
- (2) 特定の方法又は方式により飛行する場合に限りその操縦のために2人を要する航空機であつて当該特定の方法又は方式により飛行するもの
- (3) 旅客の運送の用に供する航空機で計器航法による飛行をするもの
- (4) 旅客の運送の用に供する航空機で飛行時間が5時間を超えるもの

- 問 10 航空運送事業の用に供する航空機の運航に従事する操縦者に係る最近の飛行経験
(a) ~ (c) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (4) の中から選べ。
- (a) 操縦する日からさかのぼって90日までの間に、当該航空運送事業の用に供する航空機と同じ型式の航空機に乗り組んで離陸及び着陸をそれぞれ3回以上行つた経験
 - (b) 計器飛行を行う航空機乗組員は、操縦する日からさかのぼって180日までの間に5時間以上の計器飛行(模擬計器飛行を含む。)を行つた経験
 - (c) (a) の型式の航空機の模擬飛行装置を国土交通大臣の指定する方法により操作した経験は、(a) の経験とみなす。
- (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) なし

- 問 11 操縦等を行おうとする航空機と同じ種類の航空機について、航空法第71条の3(特定操縦技能の審査等)の特定操縦技能審査を受け、これに合格しなければ行つてはならない行為で誤りはどれか。
- (1) 航空機に乗り組んで行うその操縦
 - (2) 必要な操縦技能証明を有さない者が行う操縦の練習の監督
 - (3) 必要な計器飛行証明を有さない者が行う計器飛行等の練習の監督
 - (4) 模擬飛行装置(飛行訓練装置を含む。)を用いて行う操縦の練習

- 問 12 機長の義務又は権限等に関する記述で誤りはどれか。
- (1) 航空機又は旅客の危難が生じた場合又は危難が生ずるおそれがあると認める場合は、航空機内にある旅客に対し、避難の方法その他安全のため必要な事項について命令をすることができる。
 - (2) 航空機内外を問わず航空機の安全を阻害するいかなる者も拘束できる。
 - (3) 航空機の航行中、その航空機に急迫した危難が生じた場合には、旅客の救助及び地上又は水上の人又は物件に対する危難の防止に必要な手段を尽くさなければならない。
 - (4) 当該航空機に乗り組んでその職務を行う者を指揮監督する。

- 問 13 航空法施行規則第166条の2(異常事態の報告)において(a) ~ (d)のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (4) の中から選べ。
- (a) 空港等及び航空保安施設の機能の障害
 - (b) 気流の擾乱その他の異常な気象状態
 - (c) 火山の爆発その他の地象又は水象の激しい変化
 - (d) 航空機の航行の安全に障害となる事態
- (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

- 問 14 航空法施行規則第166条の4(事故が発生するおそれがあると認められる事態の報告)において(a) ~ (d)のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (4) の中から選べ。
- (a) 閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路への着陸又はその試み
 - (b) 飛行中において地表面又は水面への衝突又は接触を回避するため航空機乗組員が緊急の操作を行つた事態
 - (c) 緊急の措置を講ずる必要が生じた燃料の欠乏
 - (d) 航空機乗組員が負傷又は疾病により運航中に正常に業務を行うことができなかつた事態
- (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 15 空港等付近の航行方法について誤りはどれか。

- (1) 計器飛行方式により離陸しようとする場合であつて空港等における気象状態が離陸することができる最低の気象条件未満であるときは、離陸しないこと。
- (2) 計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度よりも高い高度の特定の地点を通過する時点において空港等における気象状態が当該空港等への着陸のための進入を継続することができる最低の気象条件未満であるときは、進入限界高度まで進入することができる。
- (3) 計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度以下の高度において目視物標を引き続き視認かつ識別することによる当該航空機の位置の確認ができなくなつたときは、着陸のための進入を継続しないこと。
- (4) 計器飛行方式による進入の方式その他当該空港等について定められた飛行の方式に従うこと。

問 16 航空法第 83 条の 2 に定める特別な方式による航行の許可の基準で誤りはどれか。

- (1) 航空機が特別な方式による航行に必要な性能及び装置を有していること。
- (2) 航空機乗組員及び運航管理者が特別な方式による航行に必要な知識について国土交通大臣の講習を受けていること。
- (3) 実施要領が特別な方式による航行の区分及び航空機の区分に応じて、適切に定められていること。
- (4) その他航空機の航行の安全を確保するために必要な措置が講じられていること。

問 17 航空法施行規則第 194 条（輸送禁止の物件）に定める物件で (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (4) の中から選べ。

- (a) 火薬類
- (b) 高压ガス
- (c) 酸化性物質類
- (d) 引火性液体

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 18 救急用具の記述で正しい組み合わせはどれか。

航空運送事業の用に供する航空機であつて客席数が (a) を超えるものには、(b) に供する (c) を装備しなければならない。

- | | (a) | (b) | (c) |
|-----|-----|------|-----------|
| (1) | 90 | 救急の用 | 医薬品及び医療品 |
| (2) | 60 | 救急の用 | 医薬品及び医療用具 |
| (3) | 60 | 航空の用 | 医薬品及び医療用具 |
| (4) | 30 | 航空の用 | 医薬品及び医療品 |

問 19 航空法施行規則第 188 条（地上移動）の記述で誤りはどれか。

- (1) 動力装置を制御すること又は制動装置を軽度を使用することにより、速かに且つ安全に停止することができる速度であること。
- (2) 前方を十分に監視すること。
- (3) 制限区域制限速度以下であること。
- (4) 航空機その他の物件と衝突のおそれのある場合は、地上誘導員を配置すること。

問20 航空法に定める「乗務割の基準」について誤りはどれか。

- (1) 当該航空機が就航する路線の状況及び当該路線の使用空港等相互間の距離について考慮されていること。
- (2) 当該運航の気象状態について考慮されていること。
- (3) 操縦者については、同時に運航に従事する他の操縦者の数及び操縦者以外の航空機乗組員の有無について考慮されていること。
- (4) 当該航空機に適切な仮眠設備が設けられているかどうかの別について考慮されていること。